

冬虫夏草という分野がある。生きた節足動物、主に昆虫に寄生して、その養分を使って育つ子嚢菌類である。寄主は最後に死んでしまい、その体からは独特の姿をしたキノコが発生してくる。この菌は、昆虫やクモ、ダニなどの動物の他菌類にまで寄生する。冬虫夏草は、古来中国で不老長寿の妙薬や健康食として珍重されたことから、日本でもマニアックな人達の多い分野である。

私もかつて冬虫夏草に興味を持った時があった。冬虫夏草の発生時期には、山中に分け入り、一日中ツボを探して林内を歩き回り、一喜一憂する。この仲間の愛好家は、人一倍熱に浮かされている。とにかく人と違ったもの、新しいものを発見したくて、目を皿にして地面や朽木の上を這い回るのである。舐めるように見ると言葉通り、屈み込んで地面を舐めて見て回る。

ある日ある所でこれをやっていた。ふと気がつく、何物かの視線を感じる。その方向に意識を向けてみると、10センチ程の至近距離にガラス玉のような目があるではないか。向こうもこちらを見ているが静止していて動く気配がない。一瞬何なのか判断できなかったが、蛇の目であることに気がついた。驚いて飛び上がり、這いつくばっていた場所を見ると、ヒバカリが横たわっていた。ヒバカリはおとなしい蛇で、何を驚いているのとばかり長く伸びたまま動かない。やれやれである。以来この手の作業にかかる前には、一帯を入念に探査してかかることにしている。

このような体験をしたのは私だけでないようで、マムシと睨み合った勇猛な女史もいる。ちなみにこの時は、彼女の一睨みでマムシがそそくさと逃げて行ったと別の人が話していた。

久米 修



ツブノセミタケ

今週一枚：ツブノセミタケ